

論争問題を通して「政治的リテラシー」を涵養する小学校社会科の学習

－「争点を知る」に着目して－

佐藤 孔美

- 1 問題の所在と目的
- 2 「政治的リテラシー」と「争点を知る」
 - (1) 「政治的リテラシー」における「争点を知る」ことの意義
 - (2) 「争点を知る」ことと「判断の基準」をつくること
- 3 実践報告
 - (1) 題材名
 - (2) 題材について
 - (3) 学習指導計画
 - (4) 子どもたちの学びの履歴
 - (5) 考察
 - (6) 子どもたちのふり返りから
- 4 成果と課題
 - (1) 成果
 - (2) 課題

1 問題の所在と目的

2016年7月、選挙権が18歳以上に引き下げられた。現在小学6年生の子どもたちも6年後には、日本の政治に参加する機会が来る。このことを考えた時、これからの社会を担っていく子どもたちに、今、実際の社会で何が起きているのか自ら関心を向ける力、社会のでき事を批判的に見る力、そして自分の考えをさらに広げ・深め・高めることで判断する力など、将来有権者になるために必要な力「政治的リテラシー」を涵養することが求められていると考える。

総務省(2011)の『常時啓発事業あり方研究会最終報告書』¹でも、新しい主権者像のキーワードに「社会参加」と「政治的リテラシー」を挙げている。「政治的リテラシー(政治的判断力や批判力)」については、我が国の学校教育において、政治や選挙の仕組みは教えるものの、政治的・社会的に対立する問題を取り上げ、政治的判断能力を訓練することを避けてきたことを指摘している。さらに政治的・社会的に対立している問題について判断をし、意思決定をしていく資質は社会参加だけでは十分に育たず、情報を収集し、的確に読み解き、考察し、判断する訓練が必要であることを指摘している。また、文部科学省では、2015年11月に「主権者教育の推進に関する検討チーム」を設置し、主権者に求められる力の養成(以下「主権者教育」という)について、2016年3月31日に中間まとめを公表した。選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことにより、①これまで以上に、子どもの国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、②課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力を育むこと③根拠をもって自分の考えを主張し説得する力を身につけていくことが重要となっている。さらに、主権者教育の目的を、単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせることとした。主権者教育の推進方策として、新たに選挙権を有することとなる生徒、学生が在籍する高等学校、大学等において、政治参加意識の促進や周知啓発がより一層充実するための取り組みや、子供たちの発達段階に応じた社会の範囲(家族、家の近所、小中学校の校区など)の構成員の一人として、現実にある課題や争点について自らの問題として主体的に考え、判断するといった学習活動や具体的な実践・体験活動を学校、家庭、地域など社会全体で主権者教育を推進する取り組みについて、推進方策を示したところである²。

「政治的リテラシー」育成の実践は、主に中学校や高校では、社会科の公民や現代社会の授業で行われている。小学校でも価値判断をさせ「政治的リテラシー」の涵養につながる授業はなされているが、まだまだ少ない感がある。そこで、異なった価値観が共存する現代社会の中で起きている論争問題を、教材や発達段階を踏まえた上で小学校における社会科という学習の中でも引き受けて、子どもたちに社会の中の多様な考え方や価値観の存在を考えさせ、自ら批判する力や判断する力の育成こそが、これからの社会科教育の中では最も重要になると受け止める。

2 「政治的リテラシー」と「争点を知る」

(1) 「政治的リテラシー」における「争点を知る」ことの意義

バーナード・クリックは、「政治的リテラシーとは、多様な利害や価値観の対立の中であって何が争点であるかを知ることなのである(下線部、筆者)」と主張する³。

民主主義社会とは、少数意見を含めた、多様性を認め合う社会である。実際に生きている社会の中では、多様性が存在することで、解決が難しい様々な問題に直面することが多い。そういった中で、議論を尽くし、お互いが妥協したり、留保条件をつけることで納得したりしながら、合意形成していく社会こそ本当の民主主義社会なのではないか。バーナード・クリックは民主主義における政治とは「妥協を目的とする、あるいは妥協をとまなう、対立調停を旨とする公共的活動」であるという⁴。言い換えれば、「政治とは、市民社会において異なった価値観がいかにして共存し、互いに刺激して修正していくことができるかの方法論である」ということである⁵。

その現実社会で起きている論争問題を、小学校における社会科という学習の中でも引き受けて、子どもたちに社会の中の多様な考え方や価値観の存在を考えさせ、自ら批判する力や判断する力の育成が必要である。そして、お互いがどう折り合いをつけたり、妥協しあったりするのかに重点を置いた実践を目指し、日々積み重ねていかねばならない。

しかしながら、小学校での実際の授業では、合意形成することは難しいのが現状である。なぜなら、小学生に、論争問題の背景や、問題をめぐる様々な立場の人々の利益や不利益など、意見のくい違いを理解させるまでに、相当な時間がかかるからである。したがって、論争問題に対しては、多様な立場の多様な考え方や価値観があるというところまでの学習に多くの時間が費やされて時間切れとなり、単元の終了をむかえてしまうことが多かった。

この問題に対して、合意形成するよりも、検討されるべき問題を明確にすること、さらに、問題が社会的に検討されるべきであると判断する根拠を、より普遍性をもった観点からみいだすことをねらいとすることを主張する、溝口をはじめとする研究者がいる。先に述べたように、小学校の段階では、論争問題における合意形成をめざしながら、論争問題には、多様な考え方や意見や価値観があり、その中で価値観と価値観とが対立しあって、何が争点になっているのかを見抜く力が重要であると考えられる。その価値を判断する基準を少しずつ子ども自身の中に多く身につけさせ、教師のかかわりを徐々に少なくしていきながら、子どもたち自らが、論争問題の「争点」を見抜いていける力を身につけさせていくことこそが、バーナード・クリックが提唱する「政治的リテラシー」にとって重要なことではないだろうか。

(2) 「争点を知る」ことと「判断の基準」をつくること

溝口(2002)は、論争問題学習の第一義的な意義は、それを人ごとでなく自分のこととして「解決」することよりも、社会的対立において何が自己にとっての問題であるかを明確にしていくことにこそ求める必要があることと言う。そして、論争問題に対して取られた解決策や判断は、その後の類似の問題を解決する際の一つの基準になること、さらにはそうすることで子ども自身が今の社会のあり方を主体的に考えるようになることを指摘する⁶。「社会的対立において何が自己にとっての問題であるかを明確にしていくことの重要性は、自分の中にそれを問題と見なす判断基準を作り上げていくことなのである。個人の中に、論争問題における判断基準を多様にもつことができればできるだけ、多様な側面から問題を捉えることができるはずである(下線部、筆者)。」と言う。溝口はさらに、その判断基準が対立する双方の立場のものが互いに承認し合える、より普遍的な基準に高まっていくことが、必要になってくるとも指摘する。井上(1986)も、個人の自主的判断と集団での合理的共同決定との間には、個人が、自他の双方において承認されるべき基準、自らもその制約に服すべき基準を見出し、それに基づいて判断する、個人による自律的判断の領域が存在し得るのではないかと指摘する。そして一人ひとり子どもがより普遍的な判断基準を発見し発展させるには、クラス集団での討議の中で性急に妥協点を見出すよりも、自律的判断の形成を促すことが、まずもって必要とされるのではないかと指摘する(下線部、筆者)⁷。

個人による自律的判断の形成の重要性が言われる中で、実際の授業の中で、しかも、小学校中学年という「政治的リテラシー」にはまだ程遠いと思われるがちな学年の中での授業実践はなかなか見当たらない。そこで、クリックが言う「争点を知る」ということと、「争点を知る」過程で形成される「判断の基準」の重要性を認識し、それらが実際の授業の中でどのように具現化されていくことができるのか、分析を進めたいと考えた。

3 実践報告

(1) 題材名 「みんなが楽しめる新大塚公園をつくろう」③(第三学年)

(2) 題材について

本実践を行った学級は、1学期に学校の近くにある公園が新しく公園整備されるにあたって、どのような公園づくりが望ましいか、「みんなが楽しめる公園をつくろう」という題材のもとで話し合った。子

どもたちは初めに遊具いっぱいの夢の公園を描いた。話し合いを進めていくうちに「花を入れた方がよいかどうか」という提起により、使っているのは自分たちだけではない視点が出てきた。「自分の理想を優先するという価値観（私的）」と「自分以外の立場を考慮するという価値観（公共）」という価値観の対立が生まれた。子どもたちは何がこの論争問題の根源的な価値観の対立なのか、すなわち「争点」を教員が関わりながら形成していったのである。

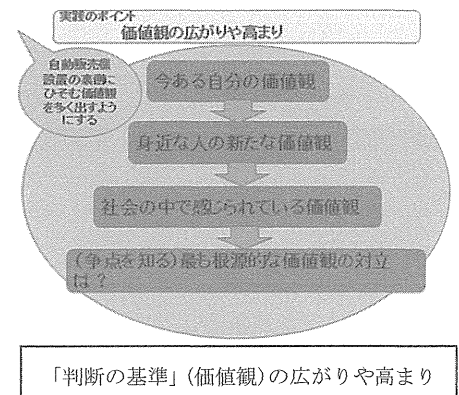
3学期には、学校の近くの新大塚公園の新しい公園整備計画をとり上げた。実際の意見交換会の中で生まれたいくつかの対立点の中で「自動販売機は公園に置いたほうがよいか」という地域の問題を子どもたち自身に考えさせた。子どもたちの意見は当初から、様々な意見に分かれていた。自動販売機を設置した方がよいという意見の中では、災害時用の自動販売機がある事実から、万が一の時に備えるべきや、熱中症対策といった人の命にかかわる重要性などが挙げられている。一方、設置しない方がよいという意見の理由は、空き缶ごみの問題や電気代、自販機荒らしという犯罪の問題など多岐にわたっている。これらの意見がぶつかり合う中で、この問題を判断するためには何が根源的な価値観の対立なのか（「争点を知る」）を、教員がかかわりながら、子どもたちが見出していける授業を展開していこうと考えた。そして、「争点を知る」過程でこの問題を判断するための様々な「判断の基準」について、考えを深め合うことが、子どもたちにとっては「政治的リテラシー」の涵養のために重要なことであると考えた。

(3) 学習指導計画（5時間）

- ① 新大塚公園をつくるにあたって出てきた自動販売機の問題を知り、第1回目の価値判断を行い、考えを発表し合う。

新大塚公園に、自動販売機をおいた方がよいだろうか

- ② 家の人や実際に公園にいる人たちにインタビューし、そのインタビューの内容やその考えをふまえて、自分の考えを発表し合う。
- ③ 新聞記事や書籍などから自動販売機を置くことに対するよい点や問題点を知り、第2回目の価値判断を行う。
- ④ 自分の考えを、証拠の事実をあげながら、考えを述べ合う。
- ⑤ 文京区役所の方から、実際の世の中の判断のプロセスと結果を伺い、自分の考えをまとめる。



(4) 子どもたちの学びの履歴 (6~10時まで)

学習の様子と4人の子どもの思考の変容を記録して分析を進めてみた。

	○その時間の学習活動 ★子どもたちの学びの様子・意見 ●子どもたちの考えや感想			
1時	○新大塚公園案が決定したが、その他にも細かい様々な問題点があることを知り、その中の一つの問題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新大塚公園には、自動販売機をおいた方がよいだろうか</div> ○第1回目の価値判断を行う。(○は自販機を設置する。×は自販機を設置しない。)			
	36児○	46児○	18児×	9児×
第一回目の価値判断	置いた方がいい。理由は、水筒などを持ってくるのを忘れる人がいたら、自動販売機ですぐに買えるし、夏で公園で病気になるたら水が必要。何か大変な時に、水や飲み物は役立つので必要。のどが渴いた時に、家に入ったん帰らなくてまずむし、すぐ買えば水分も補給できるから。	置いた方がいい。なぜなら、グラウンドで野球やサッカーなどをした人たちが帰る時などに、のどが渴いていると思うから、あった方がいいと思う。それにドライブしている時に、よくのどがかわいて、公園に寄ったりするからです。	ぼくは置かないでいいと思う。なぜなら、水飲み場があるから自動販売機にお金を使ってしまし、ジュースなど買って体にも良くないから、自動販売機はいらないと思う。あと自動販売機は、ペットボトルや缶のごみが出るから水飲み場だけでいいです。	自動販売機はあまり使っている人を見たことが少ないのに、町中にたくさんあるから、あまり必要性はないと思う。もし水を飲みたいなら水を飲めばいいし、お茶がほしければコンビニで買ったっていいし、ソーダなど買いたければコンビニでいいと思う。設置にお金もかかるし、置かない方がいい。
判断の基準 (+は置くメリット) (-は置くデメリット)	+便利さ +大切さ	+便利さ	-無駄遣い -ごみが出る	+自動販売機の必要性 -設置代
(話し合い)				
	置く 27人		置かない 7人	
	<ul style="list-style-type: none"> ・お金がもうかるから。 ・野球やサッカーをやる人がいる。→水分がいる。 ・小さい子はジュースを飲みたがる。 ・大人はコーヒーを飲みたいと思う。 ・緑を見に来た人は、コーヒーなど飲んで休みたいと思うかもしれない。 ・冬は温かいもの、夏は冷たいものが飲める。 (上記は板書の内容。以下は、)		<ul style="list-style-type: none"> ・水飲み場がない。 ・仕事帰りの大人は疲れて飲みたいかもしれない。 ・サッカーや野球をやっている人が熱中症になるかもしれない。 ・好きな物が飲める。 ・アンケート調査からウオーキングする人がいるから、いちいち水飲み場へ行くよりすぐ買える方がいい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・水飲み場がある。 ・お金がないと買えない。 ・マイボトルを持っていけばいい。 ・自販機で買うと高い。 ・ペットボトルやカンなどのゴミがでる。 ・ゴミが出ると、環境問題が起きる。 ・ゴミ箱を置くとおいなどがでる。 (ノートに書かれたこと)		<ul style="list-style-type: none"> ・あまり使っている人を見たことがない。 ・無駄にお金を使うことになる。 ・ジュースは体によくない。 	
●授業の感想				
34児：32児の「ゴミ箱を工夫すればいい」は、ふたのあるゴミ箱を作ればいいと思います。				
38児：わたしは置いた方がいいと思います。あと39児さんに反対です。理由は、ペットボトルやカンを置いていく人がいるなら、ゴミ箱を出したらいいと思います。				
6児：公園に来る人たちは、よく運動をしているから、自販機は必要だと思いました。				
39児：大人がコーヒーを飲んで暖まりたいんだなと思いました。けれど、温かい物を入れても冷えない水筒があるからいいと思いました。				
7児：ジュースを飲んででもいいけど、水だけでも足りるし、わざわざそんなことをしなくてもいい。				
31児：どうして置かないかのかなと思ったら、エコのためという意見が出て、どっちにしようかなと思った。				
42児：わたしは最初置く派だったけど、2児の意見でちょっと迷いました。自動販売機で買うと飲み干した缶やビン捨てたら危ないと思いました。ちょっと今悩み中だけど、危ないは危ないと思います。				
15児：ぼくが心に残ったのは、マイボトルを持っていくです。マイボトルがあると、自販機は必要ない。				
16児：ゴミ箱があればいいと言っていた人もいるけど、面倒くさがり屋さんはポイ捨てるから。自販機はおく。				
*次の時間までに、家の人にもインタビューしてくる宿題を出す。				

	36児○	46児○	18児×	9児×
話し合い後の 振り返り	公園に初めて来た人の 印象がよくなると思 う。人々のためを考え ているから。	やっぱり置いた方がい い。小さい子はジュ ースを飲むから自販機は あった方がいいと思 う。それに冬は、水飲 み場の水だと寒くなる から。	お金がもうかるは、自 分がよければいいで、 ダメ。	自販機はあってもポイ 捨てが増えるだけだ と思います。やっぱり、 自販機はない方がいい と思います。
判断の基準 ()は今まで に出てきた「判 断の基準」	+公園の印象 +公共 (+便利さ) (+大切さ)	-いたずら (+便利さ)	(-無駄遣い) (-ごみが出る)	-ポイ捨て (+自動販売機の必要 性) (-設置代)

2時

○家の人(親, 兄弟, ご近所の方, 祖父など)インタビューしてきたことを発表し合う。

置く	置かない
<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子が飲みたい時に飲めるからいい。 ・近くに自販機が少ないから置いた方がよい。 ・飲みたい時にわざわざ買いに行くのは面倒くさい。 ・自販機は、公園が夜くらい時に明かりがわりになる。外灯の代わりになる。 ・水飲み場は清潔ではない。 ・災害の時に無料で飲める自販機があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいじくるかもしれない。 ・自販機がいたずらされるかもしれない。 ・悪いことをするかもしれない。 ・電気代がかかる。

○災害用自動販売機や自動販売機の電気代についてのことが出てきたので、あらかじめ用意しておいた資料を読む。(下記参照)

災害支援機 自動販売機

○コカ・コーラの会社では、災害時における飲料水を提供する「努力を
各自治体と協定し、災害用自動販売機の設置を積極的に進めており、2011年12
月末時点で、全国に6000台が設置されている。

この自動販売機は、地震が発生すると、通信ネットワーク技術で遠くか
らでも操作でき、自動販売機にあわせて設置された電光掲示板に災害情報を流
したり、本体にのこっている飲料を無料で提供したりと、緊急時に自動販売機
ならではの機能をいかした支援を行うことで、地域に役立っている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災の際には、約400台が動き、8万
8000本が以上の製品が無料で必要な人々にわたりました。

○グイードリコンでは、ふだんは通常の自動販売機が、災害時で停電になっ
た場合、非常用電源に切りかわり、停電後48時間以内であれば、最大で500本
の商品を人々にわたすことができるようである。

下の表示は、地震などの大きな災害時に、この会社が「助」力することを約束し
たものです。



「自動販売機」を主題とした本を書いた人の感想

日本には、自動販売機が、全国いろいろなところにある。ところが、たまに
海外を旅してみると、どこの国へ行っても、日本ほど自動販売機にお目にかか
らない。自動販売機になれ損じしているわたしは、そんな時に多少の「不便」を
感じる。と同時に、なぜ日本で自動販売機がこんなにひびきし、海外ではこ
れほどひびいていないのだろうか、という疑問をいだく。

日本だけではないのだが、まちや電車の中であたりかまわず飲み会いし、あ
きかん、あきびん、空きペットボトルをすておく光景を目にする。日本につ
いては、少なくとも、40年前には見られなかった光景である。

『自動販売機の文化史』(2003年) P246

自動販売機の設置台数と電気代

日本における自動販売機の設置台数は500万台。うち、270万台ほどが飲
機販売機である。平均時につかわれる電力の量は1キロワットである。家庭での
1キロワットの稼働を使った場合の電気代は、1時間に20円ほどであるから、
自動販売機は1年に17万円ほどの電気代を支払っていることになる。また、270
万台の自動販売機の電気量は、ほぼ福島原発の1号機から4号機までの合計
発電量にいちするるのである。

(<http://d.hatena.ne.jp/founder/20110404/1301875687>)

●授業の感想

- 32児：確かに明かりはきれいにつくけど、なくても、外灯があるから自販機はいらないと思います。いたずらをするのはどうしてかな？
- 8児：自販機はあった方がいいと思います。いたずらされるなら、防犯カメラをつけたいと思います。
- 45児：電気代はみんなのためだったらお金はかかってもいい。熱中症になったら困るので、自販機はいると思います。
- 36児：置いた方がいいと思います。公共施設なので、もしものことを考えて置くのは当たり前だと思います。もしもの災害の時のことを考えます。
- 39児：ゴミ箱を作ると掃除する人が大変。自販機は夜に公園を明るくしてくれる。私の家の近くの公園は、6時までだからトイレもきれいだけど、新大塚公園は24時間あいているから、夜は暗く利用者が少ない。
- 6児：よいところも悪いところもあってどっちも迷う

	36児○	46児×	18児×	9児×
ふり返り	置いた方がいいと思う。公共施設なので、もしものことを考えておくのは当たり前だと思う。もしものさいがいの時のことを考える。	12児くんの言っていた子どもがいじくるなどの意見になっとくしました。なぜなら、私も小さいころにほかの子どもが何だろうとという顔をして、いじくっていたからです。なので、水のみ場で飲むだけでもいいかなと思いました。	さいがいの時にただになるのはいいと思います。でもさすがにお金が高すぎる(電気代)から、べつに新大塚公園にまで作らなくていい。置くのいいところは、コーヒーが好きな人が楽しんでくれる。置いて、子どもがいじくってこわれたらお金がむだになるから、置かなくてもいいと思う。	置く方のいいところは、災害時に無料で飲み物をくれること。置かない方のいいところは、4590億円に+17万円になってしまうこと。
判断の基準	+災害時 +公共 (+便利さ) (+大切さ) (+公園の印象)	-いたずら (-いたずら) (+便利さ)	・+災害時 ・-電気代 +嗜好 ・-いたずら ・-無駄な出費 (-無駄遣い) (-ごみが出る)	+災害時 -電気代 (+自動販売機の必要性) (-設置代) (-ボイ捨て)

3時

○前時に書いたお互いの感想を読んだり、その感想の中に関連する新聞記事(東日本大震災時に自動販売機があってよかった記事。病院に設置された自動販売機は熱湯や水も出て粉ミルクや服薬にも便利な記事。自動販売機荒らしの記事。自動販売機によるごみに悩まされる記事。)を読んだりして、根拠を明らかにした、最終判断の考えをノートに書く。

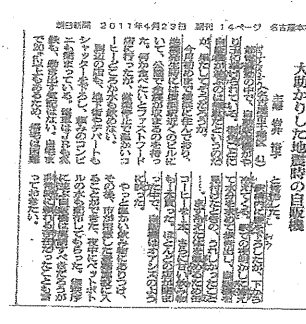
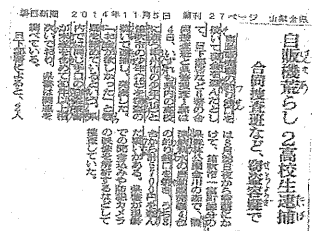
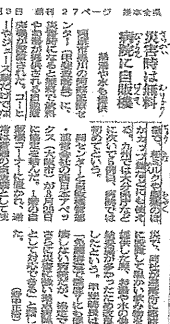
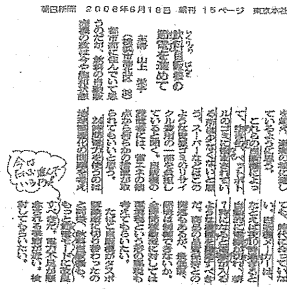
論議委員の方の話

自販機はほんのりから飲み物を買って、ガチャンと空の音がひびいて気になります。とくに夜は、あたりも静まりかえっているので、ガチャンという音がするさくさく、公園の遊所に住む人たちは、めいわくがわかります。

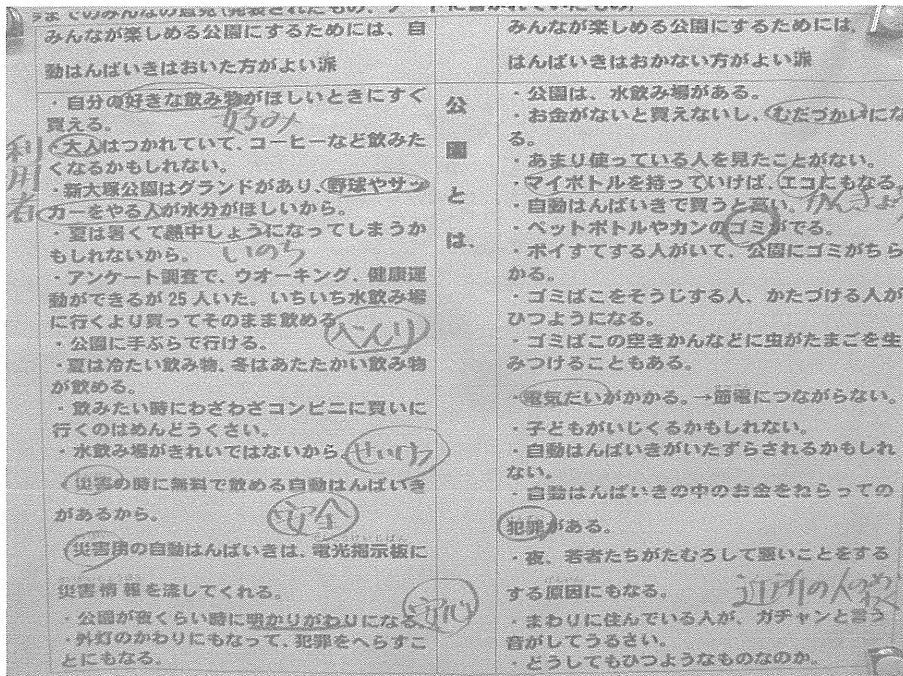
自動販売機の記事②



東日本大震災時に自動販売機が役に立ったという記事



〈ここまでにあがってきた「判断の基準」〉



	36児○	46児○	18児×	9児×
第二回目の 価値判断	置いてても悪いことはあ るけど、それはふせげ る。自販機は <u>もしもの</u> <u>時に役立つし</u> 、置かな い方がよいと思ってい る意見をこれから自販 機の工夫につなげて生 かしていけばいい。	夏は暑くて熱中しよ うになる人がいる。みん なが安全にけんこうに すごせたらいい。自販 機をガチャガチャする のは、一人くらいは見 ているだろうから、け いさつに電話すればい い。	熱中しようになるのを ふせぐなら水を持って いけばいい。特に暑い 日は2リットルの水筒 を持っていけばいいと 思う。明かりがわりに なると書いている人が いるけど、新大塚公園 には元から外灯もある からおかなくてもいい。	①ガチャンという音が うるさいと近所の人が 言っている。②莫大な お金がかかる。③ポイ 捨てがあると、せっか く緑が多くて気持ちい い公園なのにふゆかい になる。
判断の基準	+災害時の安全と情報 確保 +便利さ (+災害時) (+公共) (+便利さ) (+大切さ)	+命の安全を保障 -いたずら→手立て (-いたずら) (-いたずら) (+便利さ)	+熱中症→-自分で水 を持参 +明かり代わり(防犯) →-外灯あり (+災害時) (-電気代) (+嗜好) (-いたずら) (-無駄な出費) (-無駄遣い) (-ごみが出る)	-騒音 -コスト -本来の公園の意見 (+災害時) (-電気代) (-ポイ捨て) (+自動販売機の必要 性) (-設置代)

4時

新大塚公園には、自動販売機を置いたほうがよいだろうか。判断するために大切なことを中心に自分の考えを発表しよう。

(話し合い)

置く 25人	置かない 10人
<ul style="list-style-type: none"> ・すきなものが飲める。好みを大事にしたい。 ・飲みたい時にわざわざ買いに行かなくてすむから便利。 ・野球やサッカーをする人がいるから、夏など熱中症にならぬよう置いたほうがいい。 ・災害時に無料で飲み物が飲める。命を優先しなければいけない。 ・自動販売機があると明かり代わりになるから、犯罪も減らせて安心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみのポイ捨てがあり、ごみの問題が心配 ・公園が汚くなって不愉快になる。 ・近所に住む人たちがうるさいかもしれない。 ・自動販売機は電気代もかかるし、節約すべきだ。電気を使うことは地球温暖化につながる。 ・自動販売機荒らしがあるから、犯罪も増えて安全・安心の公園でなくなる。

★最終の話し合いである。価値観と価値観がぶつかる中で何が根源的な価値観の対立なのかを、子どもたち自身が見つけていけるように教員が介在しながら進める心づもりではあった。前時までの話し合いや書かせたい意見からも、置く派の一番の主張は命を優先するということ。置かない派の主張は、ポイ捨てなどのごみの問題、電気代がもったいないこと、自販機荒らしなどの犯罪の問題が多かったのも、そこに絞られていくことを予想していたが、3年生の子どもたちの話し合いは、なかなか「争点を知る」ところまでは、行きつかなかった。しかし、子どもたちの話し合いは、初めは自分にとっての自動販売機という語りであったが、小さい子にとってや、近隣住民の立場や、多くの利用者の立場に立った考え方が出てきた。授業の終末は、「難しい。」「いつまでたっても決まらない」「じゃ、公園課の方に来てもらおう・・・？」という話で終わった。

	36児○	46児○	18児○	9児×
最終の話し合い後	ポイ捨てだと置かない方がいいし、災害時だと必要なので、どちらもいい方があるので迷いました。けれど、 <u>もの時に命がすぐわかるかもしれないので置いた方がいい。</u>	ポイ捨てになっとくした。でも、よくカラスとかがいじってかたづけてくれると思う。だからあったほうがいい。	4くんのコンビニが売ればよかったけど、3くんのコンビニは(災害時の時)売れないということになっとくしたので、いるにかえた。	一番迷っているのは、災害時のことを大切にするか、 <u>ふだんのことを大切に</u> するから。 <u>災害</u> というのは、 <u>しょっちゅうおきる物でないから、ふだんのことを大切に</u> する。
判断の基準	-ポイ捨て +災害時、命の安全 (+災害時の安全と情報確保) (+便利さ) (+災害時) (-電気代) (+便利さ) (+大切さ)	-ポイ捨て (+命の安全を保障) (-いたずら→手立で) (-いたずら) (-いたずら) (+便利さ)	-災害時の困窮感 +熱中症→-自分で水を持参 +明かり代わり(防犯) →-外灯あり (+災害時) (-電気代) (+嗜好) (-いたずら) (-無駄な出費) (-無駄遣い) (-ごみが出る)	+災害時 -普段のことを大切に (-騒音) (-コスト) (-気もちいい公園) (+災害時) (-電気代) (-ポイ捨て) (+自動販売機の必要性) (-設置代)

5時	<p>○文京区のみどり公園課の方のお話を伺う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お話の内容</p> <p>【最終結論】新大塚公園には自動販売機は設置しない。</p> <p>【結論に至るまでの経緯】</p> <p>○置くメリットは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機を置くメリット・デメリットのどちらが度合いが高いかを比較した。 ・メリットは、近くで購入できる。熱中症対策。防災対策になる。 ・防災対策のための飲料水については、この周辺は学校が多く、公園の後ろの音羽中学には、水や食料があるので、災害時は中学校で賄える。 <p>○置くデメリットは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の利用者の目的を考えると、公園の利用者全体の中でスポーツをやっている人の割合はそこまで多くない。 ・自動販売機でお金が盗まれるなどの、犯罪のきっかけになってしまうことがある。 ・人がたむろする環境もできてしまう。 ・今よりも環境が悪くなってしまう可能性がある。 <p>○判断に至る前に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに飲料水を買える場所が無かったら、置くことになったかもしれない。しかし、コンビニまで200メートル。公園に自販機がないと買うのが不便ということはない。 ・自販機を置いているところは、本格的に運動するところや、常に管理する人がいるところ。管理する人がいるのは、犯罪が起こらないようにである。 ・メリットとデメリットの度合いを比較すると、デメリットの方が大きいと判断した。 <p>その後子どもたちの質問タイムをとったが、質問が多数出た。</p> <p>Q：公園づくりのために、何回くらい住民と話し合ったのですか。 A：4回</p> <p>Q：今回結論を出す時、CO₂の問題はあったのか。 A：今回は安全面、防犯面の理由が大きかった。</p> <p>Q：実際、犯罪はあったのか。 A：なかった。しかし、使い方が悪いと苦情があった。</p> <p>Q：元々、どうしてこの問題が出てきたのか。 A：一部の利用者から要望が出た。</p> <p>Q：みどり公園課の方はどちらの意見だったのか。 A：自販機を置くとなると難しい面があった。</p> <p>Q：自販機から出されるCO₂はどのくらいなのか。 A：わからない。</p> <p>Q：決めるのにどのくらいかかるのか。 A：半年くらい</p> <p>Q：みんなが納得した理由は何か。 A：安全、安心に使ってもらいたい、だから防犯安全面を考えたことがわかってもらえた。</p> <p>Q：置く人と置かない人は、どのくらい分かれたのか。 A：40～50人ほどの参加者の中で置く派は4、5人だった。</p> <p>Q：1日どれくらい話し合いをするのか。</p> </div> <p>○今までの学習をふり返って、意見文を書く。(ふり返りは、P 36)</p>
----	---

(5) 考察

① 「争点を知る」

授業者の願いとしては、価値観と価値観がぶつかる中で何が根源的な価値観の対立なのか、すなわち「争点を知る」について、子どもたちが話し合い、教員が介在しながら見出していく授業を目指していた。4時間目の前までの話し合いや書かせたい意見からは、自販機を置く派の一番の主張は、万が一の災害時に自販機があることで命が助かるかもしれないという、命を優先するという考えだった。置かない派の主張は、空き缶のポイ捨てによるごみの問題、無駄な電気代の消費、自販機荒らしなどの犯罪の問題が最終的に残っていくことを予想していた。しかし3年生の子どもたちの話し合いは、話し合いの焦点を絞っていくということは難しいことを実感した。出てきた意見にどんどん反応して意見を積み重ねていくことで、なかなか「争点を知る」ところまでは行くことは難しかった。

一方、「争点を知る」ことが形成される過程の中で、子どもたちの本問題に対する「判断の基準」が、インタビューや対話的学びを通して増えていったり、質的に高まっていたことがみえてきた。

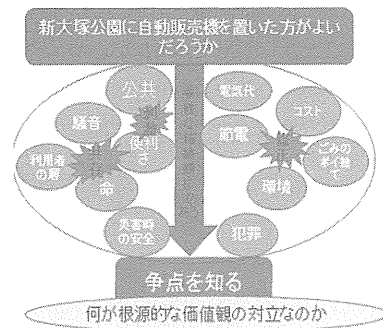
② 一人ひとりの「判断の基準」は、量的にも質的にも高まっている

・児童の思考の変容と「判断の基準」

*番号の横の○×は、4回の判断の移り変わり

	学習過程	36児○○○○	9児××××
第1時 第一回目の 価値判断	「新大塚公園に、自動販売機をおいた方がよいだろうか」という問題に対して、第1回目の価値判断を行い、考えを発表し合う。	○置いた方がいい。理由は、 <u>水筒などを持ってくるのを忘れる人がいたら、自動販売機ですぐに買えるし、夏で公園で病気になったら水が必要</u> です。何か大変な時に、水や飲み物は役立つので必要です。のどが渴いた時に、家にいったん帰らなくてもすむし、すぐには買えば水分も補給できるから。	×自動販売機はあまり使っている人を見たことが少ないのに、 <u>町中にたくさんあるから、あまり必要性はない</u> と思う。もし水を飲みたいなら水を飲めばいいし、お茶がほしければコンビニで買ったりしてもってくるのもいいし、ソーダなど買いたければコンビニでいいと思う。 <u>設置にお金もかかるし、置かない方がいい。</u>
判断の基準		+ 便利さ + 大切さ	+ 自動販売機の必要性 - 設置代
話し合い後		○公園に初めて来た人でも印象がよくなると思う。 <u>人々のために考えているから。</u>	×自販機はあってもポイ捨てが増えるだけだと思います。やっぱり、自販機はない方がいいと思います。
判断の基準		+ 公園の印象 + 公共	- ポイ捨て
第2時 ふり返り	家の人にもインタビューし、さらにその考えをふまえて、考えを発表し合う。	○置いた方がいいと思う。 <u>公共施設なので、もしものことを考えて置くのはあたり前</u> だと思う。 <u>もしものさいがいの時のことを考える。</u>	×置く方のいいところは、災害時に無料で飲み物をくれること。置かない方のいいところは、 <u>4590億円に+17万円</u> になってしまうこと。
判断の基準		+ 災害時 + 公共	+ 災害時 - 電気代
第3時 第二回目の 価値判断	新聞記事などから自動販売機を置くことに対するよい点や問題点を知り、第2回目の価値判断を行う。	○置いて悪くはないけど、それはふせげる。自販機は <u>もしもの時に役立つし、置かない方がいい</u> と思っている意見をこれから自販機の工夫につなげて生かしていけばいい。	×①ガチャンという音がうるさいと近所の人が言っている。②莫大なお金がかかる。③ポイ捨てがあると、せっかく緑が多くて気持ちいい公園なのに <u>ふゆかいになる。</u>
判断の基準		+ 災害時 - 一面の理解	- 騒音 - コスト - 本来の公園の意味 ③の新たな判断基準がこれまでの過程の中で生まれた。
第4時 最終の話し合い 後	自分の考えを、証拠の事実をあげながら、考えを述べ合う。	○ポイ捨てだと置かない方がいいし、 <u>災害時だと必要な</u> ので、どちらもいい方があるので迷いました。けれど、 <u>もしもの時に命がすくわれるかもしれないので置いた方がよい。</u>	×一番迷っているのは、 <u>災害時のことを大切にするか、ふだんのことを大切に</u> するか。災害というのは、 <u>しょっちゅうおきる物でないから、ふだんのことを大切にする。</u>
判断の基準		- ポイ捨て + 災害時→命の安全	自分の中に新たな「真の争点」が生まれている。
思考の変容の 考察		36児は、初めから設置する考えを貫き通している。初めは、自販機があるとすぐに買える便利さや病気になったら水が必要という命の安全のことをあげていた。最終判断の前までに、設置することのマイナス点も認めているが、最後には災害時のことをあげ、もしもの時に命が救われるという理由で設置する判断をした。命の安全という価値判断が、病気になったら水が必要から、万が一のことも想定した判断に成長していることがわかる。	9児は元々、便利な世の中に批判的な価値観をもつ生活経験の持ち主。自販機の設置には、初めから反対意見を述べている。話し合いの度に、新しい価値観が対話的学びを通してH児の中に生まれ、災害に無料で配られる良さと、自販機を置くマイナス面で自己内対話を行っている。そして、公園がもつ本来の意味や新たな視点として、普段のことを大切にするか万が一のことを重視するか、自分なりの「争点」をもちながら、判断している。

「争点を知る」過程の中で、子どもたちは、様々な「判断の基準」と出あい、正対することができた。36児は、初めはすぐには買える「便利さ」という個人的な「判断の基準」をあげていたが、インタビューや新聞記事など他者からの話や、学級内での対話的学びを通して、災害時の「みんな」の立場に立った社会的な「判断の基準」に基づいて考えられていた。これを高まりと捉える。また、9児は、初めから、社会的な「判断の基準」に基づいて本問題を考えている。さらに、反対の立場を終始貫き通しているが、その過程においては常に賛成派の考えも受け止めながら、多様な「判断の基準」で考えるに至り、自己の中で葛藤しながら迷い悩んでいる。そのことが、自分の考えを広げ・深め・高めることにつながっていると考えられる。



(6) 子どもたちのふり返りから（本題材を終えた後の意見文）（下線部筆者）

- ① M児
公園をつくる時には、公園は公共の場だから、みんなが楽しんで使えるようにすることがわかった。公園を使う人が、安全で安心して使えることを一番に考えてつくることもわかった。地域の人たちが使う公園だから、少しぐらい時間が多くかかっても、地域の人たちと意見を交流していい公園をつくった方がいいんだと思いました。置くか置かないかを決めるときは、メリット・デメリットの多さを比べて決めることがわかりました。
- ② Y児
必ずメリットがあればデメリットがあるのだから、絶対何もかもがメリットなんてことはないのだから、まずはメリットを考えるなら、デメリットも考えて、そしてそのデメリットから決める方がいいと思いました。・・・最後に、自分の意見が絶対人のよりもいいと考えてても、ちゃんと人のも見ると、そうすれば、自分が考えてない、自分よりも良い意見に出あってそう考える。納得するなどのことが起きると思うので、こういう学習のときは、人の見ることが大切だと思いました。
- ③ R時
考えて、結論は出なくても意見や反対を出し、付け足ししながらどんどん答えに近づいていると思いました。・・・私たち（が考えたこと）だけでも、小さな力になっていると思いました。
- ④ S児
全員の利用者は、一人ひとり考え方が違うので、二人に合わせると他の人が楽しくなる可能性があります。そこで、私は一つの条件があるだけで、「公園」とは難しくなるものだなと思いました。・・・みんなの希望をかなえるには、なるべくよくなるようにいいところを新しい案に取り入れるとよいということを学びました。・・・自動販売機を置くか否かのときは、私は真っ先に置くを選びました。便利だからという理由だけでした。でも、話し合いを進めていくうちに、簡単には決めてはいけない気が付きました。・・・何事も軽はずみに決めてはいけないということを学びました。全体を通して、私は公園とはみんなが楽しめる日常的に大切な存在なので、それを決めるには、利用者の思いを考え、希望がかなっている素敵な場であるように、真剣に決めていかなければいけないと学びました。
- ⑤ I児
A案かB案か決めるとき、大事だと思ったことは、いろいろな人の立場になるということです。A案B案の場合は、お母さんの立場や、休みたいサラリーマンの人や、毎日公園に来ている人の立場になったりしました。自動販売機を置くか置かないかを決めるときには、スポーツをやっている人などと立場になってみました。いろいろな立場になると、自分はこっちの方がいいなどと、思っていたことも、少し変わってくることがわかりました。他にも、私が判断するときに大事だと思ったことは、証拠の事実を見つけることです。自分は、こう思っていたけど、実際に見てみたり、聞いてみたりしたら違ったり、同じ意見だったりするので、証拠の事実はとても大事だと思いました。・・・
・・・いい意見も、悪い意見も出すと、みんなのことを考えさせてくれるので、いいと思いました。自販機では、普段を大切にするか、災害時を大切にするかもめました。それぞれに、メリットデメリットがあり、これもとても考えました。でも実際に大石さんの話を聞くと、犯罪が起きてしまうかもしれない、普段のことを大切にしていました。そして災害時の場合は、音羽中学校へ行けばいいと、この意見にも納得できました。なので、実際に聞いてみることは本当に大切なことがわかりました。

4 成果と課題

(1) 成果

① 「争点を知る」過程の中で、「判断の基準」を量的にも質的にも成長させていくことが、「政治的リテラシー」の涵養につながる

本論争問題において、「争点を知る」過程の中では、子どもたちの中には、インタビューや新聞記事などの他者からの話や、クラス内での対話的学びを通して、論争問題における様々な「判断の基準」もつことができた。さらに、「判断の基準」は、対話的学びを通して、量的にも質的にも成長させていくことができたことも成果である。

価値観と価値観がぶつかりあい、様々な価値観と出会う中で、根源的な価値を見出していたり、自分自身の価値観を問い直したりすることにもつながっていくことは意義深い

② 中学年から「政治の問題を学習する」ことの重要性

政治学習が、全国の小学校高学年の担任から敬遠されがちだとされる主な理由としては、第一に、教科書に掲載されている学習内容が限られているため、各学校の年間指導計画の中に、明確に位置付けることが難しい現状があげられる。第二に学習内容の複雑さや難しさと共に、政治的中立性が保てないのではないかという懸念があるからではないだろうか。実際に世の中で起きている社会問題や論争問題を扱うことで、どちらか一方の思想の影響が大きく、中立性が保てなくなるのではないかという議論がなされている。しかし、決してそうではないと考える。むしろ、子どもたちが、社会問題や論争問題の背後に隠されている多様な考え方や価値観が出てくることが保障されることの方が、本当の政治的中立性を保つことにつながるのではないかと考える。社会問題や論争問題に出あった時に、「判断するための基準」をできるだけたくさんもっていることは、本当にそれでよいのか、他に考え方はないのか、筋が通っていて分かりやすく説得力はあるか等、様々な角度からそれらの問題を見渡し、考えることができる。これからの未来を担う子どもたちにはこの力が必要不可欠なのである。政治学習は、日本の社会科では6年生から行うという固定観念が教師にはあるが、決してそうではなく、3年生（8～9歳）という早い時期から、3年生という発達段階においてもわかりやすい社会問題や論争問題を扱えば、「政治的リテラシー」を確実に育てていくことができると考えている。

(2) 課題

価値観と価値観とが対立しあって、何が争点になっているのかを知る力は、「政治的リテラシー」の涵養のためにはとても重要なことであると考えられる。今回の話し合いでは、もう少し論点を絞った上で、子どもたちが討論できるように授業を進めることが、教員には求められたことを、この実践を終えて実感している。それについては、今後さらに研究を継続し、発展させていきたい。

【引用・参考文献】

- 1 総務省(2011)『常時啓発事業のあり方等研究会 最終報告書』http://www.soumu.go.jp/main_content/000141752.pdf (2016年8月9日閲覧)
- 2 文部科学省(2016.6)『文部科学省主権者教育の推進に関する検討チーム中間まとめ概要』(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/1372381.htm) (2016.07.28 閲覧)
- 3 小玉重夫(2015)「第1節 政治的リテラシーとシティズンシップ教育」唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔 監修 J-CEF編 『シティズンシップ教育で創る学校の未来』p.12.
- 4 バーナード・クリック, 添谷育志・金田耕一訳 (2004)『デモクラシー』岩波書店, p.171.
- 5 バーナード・クリック, 鈴木俊彦訳 (1997年)「思想家 丸山眞男」みすず編集部編『丸山眞男の世界』みすず書房, p.66.
- 6 溝口和宏(2002)「開かれた価値観形成をめざす社会科教育—『意思決定』主義社会科の継承と革新」全国社会科教育学会『社会科研究』第56号, p.33
- 7 井上達夫(1986)『共生の作法』創文社, pp.216-224.